

**\*旧図書館の乾板の箱から隕石らしきものを発見**

国立天文台天文情報センター・アーカイブ室では国立天文台の旧図書館（昭和5年(1930年)建設）の1階に保管されている古い天体写真乾板等の整理を進めている。この作業の一環の中から昭和20年2月の本館焼失で失われたと思われていた100年以上前に撮影された写真乾板が発見され、日本人最初の小惑星発見の写真乾板が出てくるという大きな発見もあった。天体写真乾板の整理は佐々木君、大島君が進めており、筆者はこの物置状態の棚から確たる資料とも思えない雑物の整理を引き受けている。今回は手札の乾板の箱(写真1)に入っていた隕石と思われるものの発見の話である。



写真1 隕石片と思われるものが入っていた箱

箱の中に日本天文学会の原稿用紙に書かれたメモ書きに包まれた数点の隕石(写真2)と思われるものが入っていて驚いたのである。



写真2 大きな塊2個

全体としては写真3のように入っていた。



写真3 箱の中の数点の隕石状の塊

これらを包んでいた原稿用紙はクシャクシャでメモ書きを完全には判読することはできなかった。クシャクシャのメモ書きの紙を霧吹きで濡らし何とか平面に近く戻して取り込んだ画像が写真4である。

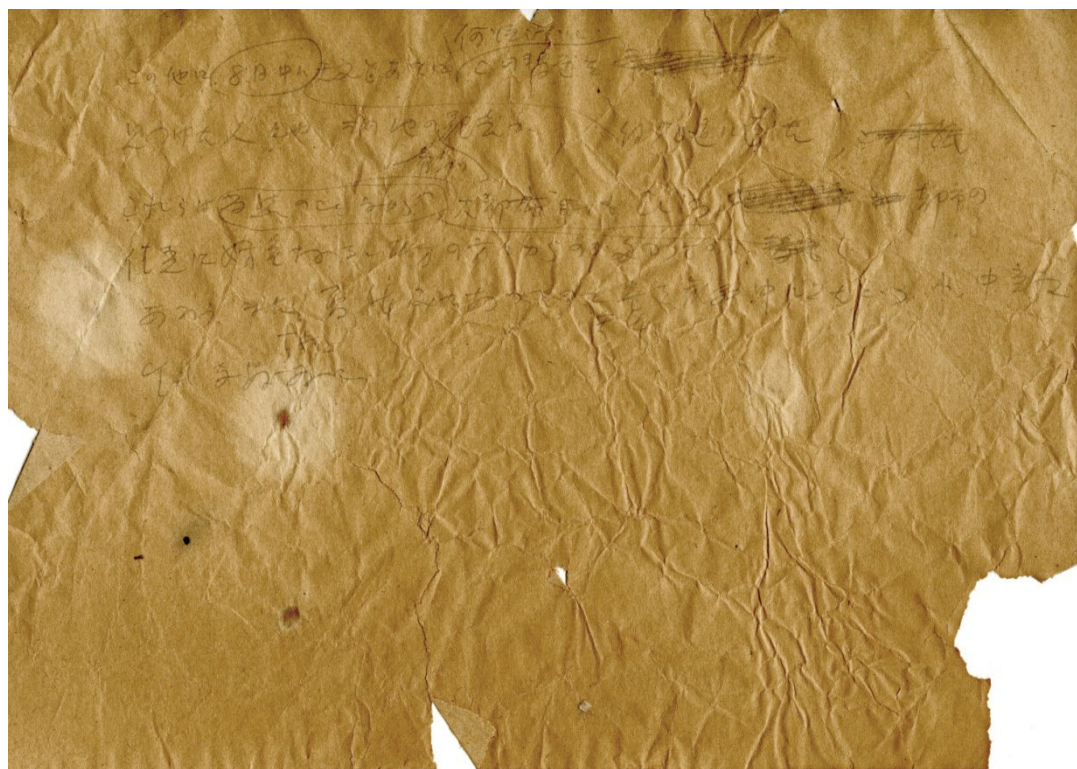


写真4 隕石状のものをくるんだ紙

写真4の文字部分を拡大したものが写真5である。





写真5 メモ部分の拡大写真

これを何とか解読すれば、手掛かりが得られるかと思ひ周りの人の助けを得て何とか文字にしたものが以下である。しかし内容は読み取れない。

「この他に 8 日中に (挿入 : 70\*\*\*\*た) 天文台あてに (挿入 : 何\*\*\*\*) この  
\*\* (数片) を見つけた人々や その他の\*\* (参加) \*光つ

これらは当然のことながら、大都市よりむしろ都市の住光に妨害されない地方の方々からのか\*\*つてのは であろう。またちょうど夏休みであったので、天体を観察中に見たという小中高生も\*\*\*\*」

これでは判読したとも言えないし、意味不明であるが、夏休みの天体観察中の小中高生が落下を見たとも書いてあるのであろうか、8日に天文台に送ったと読めるから、落下した隕石片を天文台に送られたものがこの箱の中身と思われる。

写真6が、隕石片と思われるもので一番大きな塊である。



写真6 隕石片か

今少し大きくして見る。最も大きなもので3.5x2.5cm程度の大きさである。



写真7 最も大きなものの裏面

隕石片と思われるものは9個あり、それらをスケールと一緒に撮影したものが写真8である。これらについて、国立科学博物館の米田さんに見ていただこうと思っている。

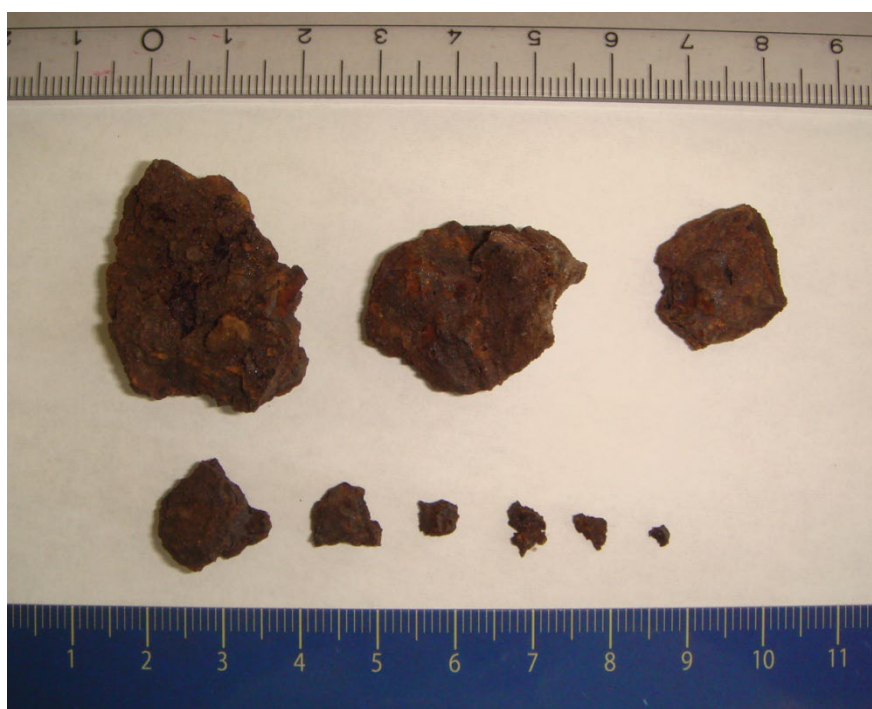


写真8 スケールと一緒に撮影した隕石片？

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaj@pub.mtk.nao.ac.jp)